

南方軍カ三通信隊部隊略歴

隊長 陸軍火佐 奥村小太郎

年月日	概	要
昭一、九、八、三〇	軍令陸甲カ八十八号に基き、昭南に於て編成完結	
六	尔後「マライ」 「スマトラ」 「ジャワ」 「ボルネオ」昭南の各地に地区隊（軍隊区分に依る）及本部を配置し、南方軍の骨幹通信、カセ方面軍及「ボルネオ」守備軍の作戦地域に於ける局地通信（何れも航空地上、船舶通信を含む）防衛、防空通信を担任す。	
二〇、七	当部隊に編成せられたる旧航空カ三固定通信隊陸軍曹長山田「ビルマ」へ出張し飛行機事故に依り行方不明となりたるままに部隊に編入せられたるも事故死と判定せらる。	
一九、九、一五	陸軍兵長山本勘一郎（病名不明）	
一〇、一〇	南方カ一陸軍病院入院中戦病死	
二〇、一、一	将校以下三六名の印度支那派遣隊を西貢に派遣す	
二	陸軍伍長中村泰三、器材運搬中自動車事故の為不慮死	
七	印度支那派遣隊云頼一等兵戦友と口論し突如逃亡す	
	印度支那派遣隊の南方軍通信隊司令部に転属と共に転属（行方不明のまま）せるも其の後不明なり	

(51)

年月日	概
昭三〇、四、一九	嘱託板津捨一胃潰瘍にて南方第一陸軍病院に入院中戦病死す
六、六	陸軍兵長伊藤玄吉「シヤツ」地区通信隊に於て戦病死する。
六、六	「ボルネオ」地区に対する敵の艦砲射撃並空襲の加はるに先だち「ボルネオ」地区通信隊は四月以降カ三十七軍司令官の指揮下に入り通信所又遂次陣地内に移動するの止むなきに到りし
自 六、八	「アピ」通信所 長陸軍少尉松村義一 「ミリー」通信所 長陸軍准尉太田寅五郎 伍長菊池新八 兵長新坂助三郎戦死
「サボン」通信所 兵長笹井正之 上等兵斎藤与治郎戦病死	「クチン」通信書記松本幾次戦病死
「サンダカン」通信所 「ムアナツト」通信所を移動中兵長高谷清「アメーバ」赤痢に罹患したるも敵の上陸直しと予想さるる急迫したる状況下病気の急戦友に及ぼす迷惑を気にし小銃にて自決す	同「サンダガン」通信所兵長坂合貫一通信機整備中敵機の機銃掃射のため戦死す
八、六 八、一四	「スマトラ」地区通信隊衛生兵長浅原兼人自動車事故に依り不慮死
終戦	

マライ一三外

八五	部隊は「マライ」地区通信隊をオニ十九軍司令官の「スマトラ」地区通信隊をオニ二十五軍司令官の「ジャワ」地区通信隊をオニ十六軍司令官の「ボルネオ」地区通信隊をオニ三十七軍司令官の隷下に各々転属せしめ「シンガポール」島内駐屯の部隊本部並直轄通信所はオニ七方面軍司令官の隷下に入り、終戦後の通信網の維持停止並に終戦処理に必要なオニ七方面軍管下の各地通信を担任す
八三七	部隊長陸軍中佐宮崎義夫虫擦突起炎にて入院戦病死す
二二〇	陸軍火佐奥村小太郎部隊長に補せらる
二二六	陸軍曹長井上森平義虫病の爲入院中死す
二二二	通信技師西野嶺三郎恙虫病の爲入院中死す
二二二	陸軍曹長吉田敏夫恙虫病及虫擦突起炎にて入院中死す
二二八	通信書記本左光友肺結核にて入院中死す（右は終戦前より入院しありたるものにして終戦時南方第一陸軍病院に転属したるも同病院より通報を受けたるにより記載す）
二二一三九	陸軍伍長平松采へ懐血病にて入院中死亡す
二二〇一八	本期間に於て遂次復員開始せられ前後四五九名復員す
二二〇一三	歴代部隊長名
二二〇一三	大佐 宮崎義夫
二二〇一三	火佐 奥村小太郎

年月日	
概要	<p>部隊事情精通者</p> <p>滋賀県精生郡朝日野村辨物師 三六</p> <p>福岡県八女郡光友村大字谷川 井上方</p> <p>奈良県比叒城郡志津美村大字畠 二九四ノ二</p> <p>陸軍大尉 安井吉文</p> <p>火尉 平島勇三</p> <p>曹長 松川 一</p>
要	

マライ 一五

野戦高射砲方九十四大隊部隊略歴

大隊長 松田喜一郎

年月日	概	要
昭五、一〇、一四	軍令陸甲カ一三七号に依り野戦高射砲方九十四大隊臨時編成下令	
一一、一〇	編成カ一〇、於千葉京市川市野戦重砲兵カ十八連隊補充隊	
一一、一五	編成完結（附表カ一）	
一一、三二	南方派遣のため千葉京市川市回村台出發	
一一、三五	門司港出帆、東部軍の諷下を脱しカ七方面軍に隸属す	
一一、三三	船復の關係にて一部人員後送として門司港に残留（附表カ三ノ一）	
一一、三三	南支那海に於て敵魚雷攻撃を受け、部隊の一部の分乗せる「誠心丸」損傷、該	
一一、三三	一部隊へカ三中隊、カ二中隊カニ小隊、大隊本部の一部は戦死三を出したる	
一一、三三	後、部隊主力より離脱、仏領印度支那に向う（附表カ四）	
一一、三三	部隊主力昭南島上陸（附表カ二）	
一一、三五	船腹の關係にて部隊主力を離れ残置せる後送者門司港に待機	
一一、三八	部隊追及のため乗船、門司港出帆（附表カ三ノ一）	
一一、三二	鹿児島県草垣島南西入。渾に於て敵魚雷攻撃を受け船腹（安芸丸）沈没、兵	
一一、三二	一名生死不明	
一一、三二	其他四名は台湾基隆カ一船舶輸送司令部台北支部に収容せらる（附表カ三）	

(55)

1696

年月日	概 要
昭一九一三、二〇	部隊主力追及のため基隆出発、陸路高雄に向う。 尔後の行動に就ては、カ一船舶輸送司令部台北支部並に台南支部に照会、終戦迄に回答を得ず、詳細不明のため死亡不確認生死不明の取扱を為す(附表カ三ノ二)
一三、三	仏領印度支那上陸の部隊一部の行動 部隊主力より離脱、仏領印度支那に向う
一三、一	仏領印度支那ツラン港上陸(附表カ四)
二〇、一、一〇	サンジャク岬着 カ三中隊は仏印カ三十八軍指揮下に入らしめられ、尔後ナベ附近の防衛に従事(附表カ五)
三、一四	カ二中隊カ一小隊及大隊本部の一部はカ三中隊より離脱し、在昭南部隊主力追及のため、サンジャク岬、サイゴン通過、陸行馬來に向う(附表カ六)
三、三三	泰、馬來回塊パダンベツサー通過
三、三六	昭南島到着、部隊主力に合す
至白 二〇、八、一三 二〇、八、一四	部隊主力昭南島上陸後の行動 昭南島及其の附近の防衛に従事(附表カ七)

マシイ 一四外

二〇、八、一四	終戦（附表カ八）
九、一	終戦処理のため人員の緊急処理（編合）実施（附表カ九）
九、一五	部隊の主力、南馬来ジヨホール州ジユマルニ移駐、南馬軍の指揮下に入らしめらる（附表カ一〇）
一一、一六	馬来リ方地区レンパン島に移駐、南レンパン昭防地区に駐泊（附表カ一一、カ一二）
一一、一六	内地帰還のためレンパン島出帆（附表カ一三）
六、二二	名古屋港着上陸
六、二二	復員完結
六、二二	部隊長名 陸軍少佐 松田喜一郎
	部隊事情精通者
	福島県伊達郡五十沢村字館ヶ森八六 陸軍大尉 引地俊男
	大阪市港区ニ茶通り四ノ三一 中尉 今泉輝明
	新潟県新潟市沼聖七〇〇 中尉 玄川 治
	富山県富山市東中野八三 陸軍衛生曹長 谷口直董
	東京都中野区城山町九 陸軍軍曹 弓削 道
	静岡県田方郡戸田村井田三五 陸軍主計軍曹 鎌田健次

野戦高射砲方四十八大隊部隊略歴

年月日	概要
昭一六七、二〇	編成下令
八一〇	完結
八三三	編成完結時の職員表附表一の如し
八三三	平塚出發
八三七	終陽昇終陽到着
	回境要地防空に任ず
	兼属関係
	カ三軍司令官の隷下
一〇、一三	カ十三野戦防空隊司令官の指揮下
	台湾高雄に上陸
	同地にて待機
	兼属関係
	カ三軍司令官の隷下
	台湾軍司令官の指揮下
三	比回に進
	兼属関係

要



三三一五

一七、一

第十四軍司令官の隷下  
台湾高雄に上陸

三五

高雄港出發 爪哇に転進  
隷属関係

二、二八

カ十六軍司令官の隷下  
爪哇出發

一三、二八

北部仏印（海防市）到着  
防空に任ず

カ一中隊 泰に派遣

隷属関係

主力カ十六軍司令官の隷下

カ二十一師団長の指揮下

カ一中隊一基駐屯軍司令官の隷下

部隊主力（本部、カ二中隊、大隊後列）昭南に転進

昭南防空隊となり昭南島要地防空に任ず

カ一中隊は泰に、カ二中隊は仏印（河内）に在りて各々前任務を続行せしむ。

隷属関係

カ十六軍司令官、南方軍總司令官、カ二十九軍司令官の隷下を基

一八、五

年月日	概 要
昭三〇、四二〇	昭南防衛司官の隷下に入る。
一	か一中隊 隷下を脱し
三	か三中隊 隷下を脱し独立中隊を編成す
七	前項欠教中隊充 せらる。 指揮下部隊
八、一四	野戦高射砲カ九十四大隊、同七十二大隊、野戦機関砲カ七十八中隊、同七十九中隊、野戦機関砲カ百二大隊、か一中隊、船舶砲カ二聯隊、特設昭南防衛隊、特設照空中隊
八、一四	停戦
九、二	昭南島障地警備並に「ブキデマレ」地区警備に任ずると共に航合側に対する警備申送りをなし転進す
九、二	終戦
一三、一六	レンバン島に移駐
三、六三三	復員完結
六、一ニ	「レンバン」島出発
六、三ニ	名古屋港上陸
歴代部隊長	

マライ一五外

部隊事情精通者

中佐 黒田直樹  
少佐 伊藤加一

熊本県玉名郡鍋村大字鍋二ノ六  
福岡県八幡市蛭子町八丁目

陸軍大尉  
陸軍准尉

前田春蔵  
坂崎重義

(61)

1702

野戦校閲砲カ七十九中隊部隊略歴

中隊長 陸軍大尉 金山清保

年月日	概	要
昭五、一三、二〇	軍令カ一五五号に依り昭南に於て編成完結と共に昭南防衛司令官の指揮下に入る。	
一三、二〇	昭南入方山及ノノルマントンに於て昭南附近要地防立に任ず	
二〇、四二〇	軍令陸甲カ号に依り昭南防衛隊の編成を令せられ 昭南防衛司令官の隷下に入り前任務執行	
八、一四	終戦	
九、一	コジエロンに地区に集結	
九、六	松本軍曹以下三名ケツペル作業隊要員に殉出	
九、七	ジヨホール州コタチンギに移駐	
九、一三	ジヨホール州コジュマランに移駐、同地に在り作業及受検準備	
一〇、三一	ジヨホール州コセンブロンに移駐	
一一、一四	上田火尉以下十四名コメルシンに作業隊要員として出発	
一一、一四	コレンパンに島へ移駐のため連合軍側の携行品検査受検	
一一、一五	コレンパンに島へ移駐のため連合軍側の携行品検査受検	
一一、一五	ミンガホールコケツペルに港に到着	

マライ 一六カ

二、一六	「レンパン」島へ後駐のためシンガポール「ケツペル」港出帆
二、一六	「レンパン」島宝港に到着
二、一八	「レンパン」島千島港に移駐
二、二〇	「レンパン」島千島港貨物搬建築作業開始
二、一九	「レンパン」島千島港貨物搬建築作業終了
二、二二	「レンパン」島南千武地区に移駐
二、二五	内地帰還のため「レンパン」島千島港出帆
二、一九	名古屋港上陸
二、二〇	復員完結
	歴代部隊長名
	陸軍中尉 金山清保
	編成時に於ける野戦機関砲才七十九中隊特務職員表
	職名 官 氏名 期別 摘 要
	中隊長 中尉 金山清保 召
	小隊長 火尉 赤羽蕃 召
	小隊長 森見士 大沼昌一 現
	部隊事情精通者
	長野県上伊那郡高遠町相生町 伊藤玄岩方 陸軍中尉 赤羽蕃

	年月日
<p data-bbox="1157 672 1197 1176">富山県富山市神通町二四六八番地</p> <p data-bbox="1101 1041 1141 1176">陸軍曹長</p> <p data-bbox="1093 1243 1141 1478">下野信政</p>	<p data-bbox="1220 840 1260 873">概</p> <p data-bbox="1220 1579 1260 1612">要</p>

マシイ一六外

0151

(64)

1705

南方軍特種情報部昭南支部略歴

年月日	概	要
昭二九、五、	<p>「フシ」がホールに於て編成完結                      本歳特種情報業務を実施す                      其の編成表別紙カ一の如し</p>	
六	<p>下士官三名 兵五名転入</p>	
七	<p>雇員七名 内地より到着 同日附支部に転入</p>	
七	<p>馬場技手 鳳程員「バンドン」支所出張</p>	
一〇	<p>武舎准尉 戦車聯隊に転出</p>	
一一	<p>新沼准尉 戦車聯隊より転入</p>	
一一	<p>支部長交代</p>	
一三	<p>横濱備入工兵聯隊に現地入営</p>	
一三	<p>次田見習士官転入</p>	
一三	<p>兵一〇名電信カニ聯隊より転入</p>	
昭二九、一、	<p>昭南支部カ三航空軍司令官の指揮下に入る</p>	
二	<p>庄司火尉転入</p>	
二	<p>准士官以下八名、西貢本部に転出</p>	
二	<p>寺尾大尉、西貢本部に転出</p>	

年月日	概 要
昭二〇、二	部隊は六三旅団軍司令官の指揮を解除せられ原所属に復帰す
二	馬場技手、鳳雇員「バンドン」支所より帰隊
三	三谷技手、蘭貢支部より転入
三	杉浦火尉、盤谷支部に転出
三	宮崎大尉、毘支部より転入
六	高塚火尉、西貢本部より転入
六	宮川技手入營、同日付技手林職
六	鳳雇員外七名入營、同日付雇員休務
六	支部長交代
七	兵三名、西貢本部より転入
七	立花火佐以下三十二名、盤谷支部より転入
七	小口技手「ジヤワ」に出張
八	土井曹長転入
八	山本大尉外一名転入
八	小口技手転出
八	終戦となり兵五名を有馬部隊に残置「ダニロン」に移駐
八	支部の全人員（器材を含む）南方軍築城部に転出



九	コジヨホール州コレンガムレに移駐
一三	遠藤火尉コシンガポール大和分院に於て逝去
二二	立花以佐南馬来 コレンガムレ指令勤務を命ぜられ司令部にて窮嘗給与を担
三	兵三名満期及召集解除 同日囑託方七方面軍司令部附
三三五	コレンパンレ島後駐の帰入院患者五名を残置しコレンガムレ出發
三二五	コバドバハレ着
三二七	検向船通過采船
二九	南コレンパンレ島宝港入港
	同日上陸
四四	堅田中佐独立工兵方四十三聯隊長となり転出
四四	軍馬馬場校手方ニ橋田にて帰還

(67)

1708

方五特設鉄道司令部略歴

陸軍大佐 勳 柄 政 治

年月日	概	要
昭二六、九、一三	軍令陸用方五十九号により鉄道諸部隊臨時編成下令	
一〇、一八	編成完結	
一〇、二八	争愛地救遣のため大阪港出帆	
一一、六	仏印海防港上陸	
一七、一	馬來に転進、尔後馬來に在りて鉄道の復旧向拓整備に従事	
七	緬甸に転進、尔後緬甸鉄道の復旧整備並運営に従事、戦病死、高等官一	
一一	緬甸鉄道運営中、罹病、矢一、入院後死亡	
二〇、一	緬甸鉄道運営中、罹病、矢一、入院後死亡	
五	緬甸より馬來に転進作戦中、将校一、下士官一、敵機の爆撃に依り戦死	
六	緬甸より馬來に転進作戦中、矢二、戦病死	
馬來に転進後馬來鉄道の運営に従事		
終戦		
八、一四	馬來鉄道運営中、罹病、将校一、入院後死亡	
九	馬來鉄道運営中、罹病、将校一、入院後死亡	
一一、九	一部作業隊より馬來に残し主力コレンパンレ島移駐	
一一、五、一	内地帰還のためコレンパンレ島出帆	

マラーニ

五、一三 名古屋上陸  
五、一四 復員完結

歴代部隊長

一、 陸軍少将 岩倉卯門

二、 " 千葉熊治

三、 " 山本清衛

四、 " 浜田嘉栄雄

五、 陸軍大佐 鋤柄政治

終戦後マライ地区及フレパンレ島に残置せるもの将校三、下士官四、兵一  
終戦に伴い本部と合流できず南泰に残置せるもの下士官二、兵一  
残置せる入院患者 将校二、下士官二、兵三  
部隊精通者 千葉市作 幹部

玄島泉佐伯郡五日市町

山本辰治

静岡県三島市宮町三四九六

田辺尚隆

カ五特設鉄道工作隊部隊略歴

隊長代理 陸軍大尉 根本泰次郎

年月日	概	要
昭一六、九、一三	軍令陸甲カ五九号により鉄道諸部隊臨時編成下令	
一〇、一八	編成完結	
一〇、二八	事変地激進のため大阪港出帆	
一一、八	从印海防港上陸	
一七、二	馬來に転進、尔後馬來に在りて鉄道工場の復旧整備に従事す。	
七	緬甸に転進、尔後緬甸鉄道の復旧並に運管に従事	
自七、七	緬甸鉄道従事中、緬甸回にて罹病、鉄道官一、鉄道官補二、鉄道手四、雇一	
至一八、一〇	大々入院後死亡	
自一八、一	緬甸回に於て敵機の爆撃を受け、対空战斗中、将校一、兵一、雇二、戦死、	
至一八、一	雇一買傷、入院後死亡	
至一八、一	緬甸鉄道運管中、罹病、鉄道官補一、鉄道手一、雇一、入院後死亡、	
至一八、一	緬甸より馬來に転進作戦中兵三、鉄道官補一、敵機の銃爆撃により戦死、鉄道	
自一〇、一	官補四、雇二、兵一、転進途中罹病、入院後死亡	
一〇、六	馬來に転進、尔後馬來鉄道の運管に従事	
一〇、八	終戦	

二〇、二、九

一部作業隊を馬求地区に残置し、主力は「レンパン」島に移駐す

終戦後罹病鉄道官補二入院後死七

二一、五、一

内地帰還のためレンパン島出發

五、一三

名古屋港上陸

五、一四

復員完結

丁代部隊長名

一、陸軍中佐 岡本寿祺

(昭和十七年七月依病内地後送せられ玄島陸軍病院にて死七す)

二、陸軍大佐 河野 襄

(終戦後馬求地区に在りて爆破事件あり取調を受けるため聯合側に抑

留中)

終戦後馬求地区及レンパン島に残置せる者

下士官二、兵二、軍属三三(作業隊) 持校一

残置せる入院患者

下士官二、兵一、軍属七

部隊事情精通者

枋木泉芳賀郡松木町一三〇一

根本泰次郎



カ百五十二停車場司令部略歴

司令官代理 陸軍中尉 松山太郎

年月日	概
昭一六、七、一〇	動員下令
七、一四	松山派兵が二十二聯隊にて編成
七、一七	編成完了
七、一七	下関発
七、一九	鮮満国境回りを通過
七、一九	満洲国吉林省敦化着
一八、四、三九	同地に於て関東軍野戦鉄道司令官に隷屬し停車場司令部を開設軍隊輸送及通過部隊の給養を実施
四、三九	南方後進を命せられ敦化発
五、一	鮮満国境回りを通過
五、一	釜山出發
五、一	同地に於て関東軍野戦鉄道司令官の隷下を脱し南方軍總司令部の隷下に入る
五、一	下関着
五、八	門司出發
六、五	昭南上陸 同時に緬甸方面軍司令部の隷下に入りカ五特設鉄道司令官の指揮下

要

(73)

1714

年月日	概	要
昭一八七、二	カ三野戦鉄道司令部の輸送命令に依り昭南出発	に入る
七、五	泰、馬來回境通過	
九、一〇	泰、緬甸回境通過	
九、二〇	緬甸回ペグワ着	
一九四、一	同地に於てカ五特設鉄道司令官の命に依り停車場司令部を開設、同時に「ピンマナレ」及「トングウ」に停車場司令部支部を開設、通過部隊の給養を実施、南方軍野戦鉄道司令部に隷屬し新に緬甸鉄道隊編成せられ其の指揮下に入る。	
四、二九	緬甸鉄道隊司令官の命に依り「ピンマナレ」支部を撤収本部を「ヤグウ」より「モパリン」に転移し「モパリン」に於て軍輸送業務並に通過部隊の給養を実施す	
一〇、一	「トングウ」停車場司令部支部を撤収	
一三、一	「ヤグウ」停車場司令部支部を撤収	
二〇、四、八	緬甸叛乱軍酒、伏銃架したるを以て「ヤグウ」塚「ガドウ」村附近に当部付陸軍	
五、一三	火尉松本清志以下二五名討伐に向ふ勇戦奮斗せしも同火尉は戦死す	
五、一三	緬甸鉄道隊司令官の指揮を脱し、南方軍野戦鉄道司令官の隷下に復帰する為め	



六五	マモパリンシ出発 恭 緬甸回境通過
六七	恭回盤谷着
六一〇	馬來鉄道隊司令官の指揮下に入る為恭回盤谷出発
六一五	恭馬來回境通過
六一七	馬來「クアラ」ンフルシ着 同地にありて待期
六一七	馬來鉄道隊司令官の命に依り「クアラ」ンフルシ出発
六一八	「クアラ」カンサルシ着 同地に於て停車場司令部を開設し、同時に「スンガイ」パタニシに停車場司令部 支部を開設し軍需輸送業務を実施
六一四	馬來「サラ」ックノースに集結
六一三	部隊長 陸軍大佐 伊東正雄、昭南南方一陸軍病院に於て胃腸の為め戦病死す。
六一六	馬來「レン」パンシ島に接駁
六一一	馬來「レン」パンシ島出発
六一三	名古屋港上陸
六一四	復員完結

(76)

1716



方八特設鉄道工務隊略歴

隊長 神谷桂岩

年月日	概	要
昭二六、九、一六	軍令陸甲方五九号に依り鉄道諸部隊臨時編成下令	
一〇、一八	緬成完結	
一〇、二八	争疫地救遣のため大坂港出發	
一一、二六	仏領印度支那海防港上陸	
一一、二五	仏領印度支那 泰、回境通過	
一五、二八	尔後馬來鉄道占領、開拓、復旧、整備に従事	
一六、一八	緬甸軌進のため昭南菓結	
一六、二二	昭南菓出發	
一六、二二	緬甸蘭貢港上陸	
二〇、四、二四	尔後、緬甸鉄道復旧整備及爆害による被害応急復旧、其他鉄道警備に従事	
二〇、五、一六	馬來に軌進のため蘭貢出發	
二〇、六、一六	緬甸、泰、回境通過	
二〇、七、三一	泰、馬來、回境通過	
	馬來、北鉄道隊編成、在地「タイピン」着	
	尔後、馬來鉄道運営に従事	

年月日	概要
昭一七、一〇、九	コニウタンレ取の爆薬に依り、戦死軍属判在官ニ、雇傭一三、戦傷兵一、判在官一、雇傭一〇を出す
一三、二〇	蘭貢取爆薬により、戦死軍属傭四、戦傷、軍属雇傭一を出す
一八、二八	蘭貢取爆薬により、戦死軍属傭二、戦傷、軍属雇傭四を出す
一四、二	コタジレ取爆薬により、戦死軍属傭一、戦傷軍属雇傭四を出す
一九、一〇、一〇	コタダウレ取空襲により、戦死軍属雇一、戦傷鉄道手一を出す
不詳	河波丸に於て戦死軍属高等官一を出す
自一八、六、一ニ 至二〇、四、二八	本期間敵機空襲及反乱軍のため個々に於て戦死、軍属鉄道手一、雇傭一〇を出す
自二〇、六、二三 至二〇、六、二三	蘭六八部隊の編成に伴い軍属召集を実施せら孔蘭貢地方警備中戦斗のため戦死兵二を出す
自二〇、四、二五 至二〇、四、二七	緬甸より馬來に転進の途次、行方不明者、高等文官一、鉄道手一、傭一を出す
自一七、四、二四 至一七、四、二九	本期間内、公傷死、軍属雇傭四を出す
自一七、五、五 至一〇、八、三	本期間内に於て戦病死四五を出す
自一六、一〇、六 至一〇、一、三一	歴代部隊長名 陸軍中佐 申戸弥策

マニニノ内)

自二〇、一、三一  
至二〇、五、三一  
自二〇、五、三一  
至二一、五、一四

陸軍大佐 岡上直之

陸軍火佐 神谷桂右

部隊事情精通者

東京都杉並区大宮前四丁目五七〇

部隊副官 陸軍中尉 大枝千秋

陵知泉幡豆郡福地村大字小澗野字西浦三二

陸軍大尉 船垣 一

埼玉県大宮市仲町二九七四ノ一

軍属 鉄道官 宮野葵之

三重県鈴鹿郡神立村大字小野一九四ノ二

軍属 鉄道官補 勝田徳兵衛

(79)

1720

年月日	昭五、二、二五
概	<p>昭南防衛司令部部隊略歴</p> <p>軍令陸甲オ一三八号により昭南防衛司令部の編成を令せられ、昭南に於て編成</p> <p>是結</p> <p>司令官 陸軍中将 田坂尊一</p> <p>幕僚</p> <p>参謀長 陸軍大佐 楠田胤次</p> <p>参謀 陸軍中佐 都渡正義</p> <p>副官 陸軍大尉 金山重豊</p> <p>副官 陸軍中尉 福島 旭</p> <p>尔後の幕僚異動附表オ一の如し</p> <p>指揮下部隊</p> <p>昭南警備隊</p> <p>特設昭南砲兵隊</p> <p>野戦高射砲オ四十八大隊(乙)</p> <p>カ九十四大隊(一中欠)</p> <p>特設昭南防空隊</p> <p>陸上勤務オ百七中隊</p>
要	

マノイニット

<p>一九、二二〇</p>	<p>二野戦補充司令部昭南支部        患者輸送六十一小隊        任務        昭南島地区（除海軍地区）及其の周辺に於ける治安維持警備及兵站業務の一切、特に埠頭並に貯油施設の防衛        軍令陸甲ノ百五十五号により        独立野砲兵ノ二十五大隊        野戦抜隊砲方七十八中隊</p>
<p>二〇、四一〇</p>	<p>編成を令せられ其の編成を担任、編成完結と共に指揮下に入らしめらる。        特別挺進隊尽忠隊の編成を（ノ七方面軍の軍隊区分に依る）命ぜられ、其の編成を担任、編成完結と共に指揮下に入りしめられる        軍令陸甲ノ 号に依り昭南防衛隊の編成を令せらる</p>
<p>四二〇</p>	<p>司令官 陸軍中将 田坂尊一        昭南防衛司令部</p>
<p>五、一</p>	<p>独立警備隊兵ノ七十九大隊（編成完結）        野戦高射砲方四十八大隊（乙）</p>





自	八、三〇	司令部官以下十二名ヲシンガポールレカ七方面軍
	八、二八	司令部の大部はコシンガポールレ島ヲジユロンレ地区に移駐す
	八	独立坂兵ヲ百四十八大隊の指揮を解かる
	八、三三	高射砲ヲ百一連隊指揮下に入らしめらる
		指揮下に入らしめらる
		南方軍防疫給水部
		オ十七大隊
		特設自動車ヲ十六大隊カ一中隊
		オ三十四野戦輸送司令部
	八、一四	南方燃料本部
	八、一七	野戦機関砲ヲ百二大隊カ一中隊指揮下に入らしめる
	八、一〇	台湾坂兵カ一連隊カ九カ十中隊指揮下に入らしめらる
	八、一	野戦高射砲ヲ七十二大隊指揮下に入らしめらる
	七、二五	臨時混成ヲ三大隊指揮下に入らしめらる
	七	司令部は支店業務の一切をカ七方面軍司令部へ移譲し昭南島(除海軍地区)司地区の防衛に専念せしめらる
		惠者輸送ヲ六十一小隊
		南方軍兼城部の指揮を解かる

年月日	概	要
昭和九、三	司令部に於て終戦処理業務に服す	
九、一	独立歩兵九十三連隊指揮下に入りしめらる	
九、五	司令部の大部は「ジヨホール」州「マタチンギ」に後駐す 陸軍中将 永田直武	
九、七	防衛司令官不在同司令官代理を命ず	
九、九	九十七野戦郵便隊指揮下に入りしめらる	
九、九	司令部の大部は「ジヨホール」州「ジユマルアン」に後駐す	
九、一〇	陸上勤務九百七中隊	
九、一〇	独立自動車九百二十四中隊	
九、一〇	九十八軍馬防夜隊	
九、一〇	南方第一陸軍病院を二救護班指揮下に入りしめらる。	
九、二	司令官以下終戦処理業務を終り「ジヨホール」州「ジユマルアン」に後駐 陸軍中将 永田直武	
九、二	防衛司令官代理を免ず	
一〇、二	九三十四野戦輸送司令部を九十八軍馬防夜隊指揮を解かる	
一〇、二	南方軍防夜隊給水部主力（一部残置）の指揮を解かる	
一一、二	司令部は「ジヨホール」州「センブロン」に後駐	

マシロニ

一三、一四	特設自動車方十六大隊方一中隊 リ カ十七大隊
一三、一五	独立自動車方二百三十四中隊 南方燃料本部の指揮を解かる
一三、一六	司令官「ジヨホール」州「レンガム」に後動、司令部の大部は「レンパン」島 後駐のため「ジヨホール」州「クルアン」飛行場に於て連合軍側の携行品検査 改検
一三、一八	司令部の大部は「リオ」群島「レンパン」島後駐のため「シンガポール」港出 帆
一三、二一	「レンパン」島宝港上陸 陸軍大佐 中村 寛
一三、二二	防衛司令官の不在間司令官代理を命ず
一三、二五	司令部の大部は「レンパン」島東南千武地区に到着
一三、二六	司令官「ジヨホール」州「クルアン」飛行場に於て降伏式施行せらる 司令官以下二十八名「レンパン」島千武地区に到着 陸軍大佐 中村 寛
一三、二八	司令官代理を免ず 特別挺身不忠隊を解散す

年月日	概要
昭二〇、一三一九	司令部大隊を編成完結（昭南防衛隊の軍隊区分に依る）
二一、五、一九	第一次印度部隊より到着せる部隊五名兵曹長以下九〇九名の指揮を命ぜりる
二一、六、一三	内地帰還の為千島港に集合
六、一四	麻生参謀以下一二五名蘭領「レンパン」島千島港出發
六、一四	司令官以下四名英軍の指示に依り同島宝港に到着
六、一六	宇品港上陸
六、一九	復員完結
	歴代司令官氏名 陸軍中將 田坂 尊一
	部隊事情精通者 本籍地 鹿児島県姶良郡帖佐町西餅田一五七一 陸軍大佐 楠田 胤次
	本籍地 山梨県北巨摩郡穴山町四八四七 陸軍火佐 金山 重豊
	本籍地 矢野県養父郡建屋村六二七 陸軍准尉 柳生 進

在立野砲兵ヲ二十五大隊部隊略歴

大隊長 野中 敦

年月日	概
昭一九、三、二六 一、三、三〇	昭和十九年度軍令陸甲ヲ百五十五号に依り編成下令 編成完結（於昭南島） 同日ヲ七方面軍司令官の隷下に入ると共に昭南防衛司令官の指揮下に入り昭南 島及其の附近の防衛に任す 将校職員表別紙ヲ一の如し
二〇、四、二〇	昭南防衛隊編成せらる 昭南防衛司令官の隷下に入り前任務を続行
七、一一	部隊長更迭 旧 陸軍火佐 遠山 勝雄 新 陸軍大尉 野中 敦
八、一四 九、六	終戦 「シンガポール」より「ユタチンギ」に後駐 久保田軍曹以下十三名「シンガポール」残留 「レンパン」島に後駐
二、二四	同日昭南島出帆、同日「レンパン」島上陸、神作火尉以下四〇名作業隊として帰来

要

年月日	概
昭和 三、六、一四 六、二八 六、三九	<p>             陸軍              レンパン島出帆              宇呂上陸              復員完結 於て宇呂              歴代部隊長名              陸軍火佐 遠山 勝雄              陸軍大尉 野仲 敦              部隊事情精通者              枋木泉那須郡西那須野町一 呂川殊三方              陸軍大尉 飯田正一              三重泉鈴鹿市南浜江町六七              陸軍曹長 中川秀雄              埼玉県入間郡所沢町大字所沢一四四              陸軍曹長 田中正幸           </p>

マラーニニト

(83)

1729

独立警備歩兵第七十九大隊部隊略歴

大隊長 藤田 肇

年月日	概要
昭五、一	昭南に於て完結
七	尔後主力を以て昭南島一部を以て同島南方島岬の警備 「リオリ群島（昭南島南方地区）」に転進
八、一	該地区の警備 戦斗行動中止
	歴代部隊長名 陸軍少佐 藤田 肇
	部隊事情精通者 宮崎泉児湯郡渡町竹倉 陸軍中尉 河野 藤三郎
	神奈川 泉川崎市都町一四 陸軍准尉 石井 千城
	埼玉 泉北葛飾郡高野村二四九八 陸軍准尉 小坂 喜久治

独立警備隊第八十六隊部隊略歴

大隊長 塚本忠基

年月日	概	要
昭二〇、五、一	軍令陸甲六十七号に依り編成完結時に人員一〇八名にして、尔来編成業務並に教育訓練を実施すると共に昭南島の防衛に任ず	
五、二〇	軍令陸甲六十七号に依り昭南防衛司令官の隷下に入らしめらる	
六、一〇	編成要員として現役兵及補充兵（未教育）入営	
六、二〇	編成要員として召集者（既未教育）入隊	
六、三〇	編成要員として南方航空輸送部より召集者（既未教育）入隊	
八、二三	終戦に伴い一部召集者を解除し、南方航空輸送部よりの召集者は軍属として其低編成人員中に編入す	
九、六	昭南市街警備中自動車事故に依り兵一名死亡	
九、七	市街警備を聯合側に移譲し、馬来半島「ジヨホール」州転進し、同時昭南島「ジユロン」地区へ部隊集結予定地に隊貨監視のため下士官以下二十三名を配置す	右人員は尔後聯合側指示に依り昭南市「ケツペル」埠頭に移駐「ケツペル」作業隊となる。
自九、八	「ジヨホール」州内「ユタチンギ」、「ジユマルアン」、「センフロン」等を	



マライニニニ

後駐し

至二二八

リオリ群島レンパン島後駐のため胎南港出發  
同日レンパン島に到着、尔後レンパン島南部に駐泊す

九七

コジユマルアンに於て矢一名食中毒に依り死す

一六ニ

コレンガム南方一陸軍病院に於て下士官一名病死す  
南方一陸軍病院に於てコテツペル作業隊員下士官一名病死す

一六三

歴代部隊長  
陸軍大尉 塚本忠基  
部隊事情精通者

静岡県志太郡船葉村船葉五五〇

山口県岩国市大字青木八八九

千葉県印旛郡入生村下福田一八五

陸軍大尉

陸軍中尉

陸軍准尉

塚本忠基

賀屋藏人

遠藤 武

独立混成隊二十六旅団司令部独立混成隊二十六旅団部隊略歴

旅団長 尾子熊一郎

年月日	概
昭和三十八	南部「スマトラ」州「パレンバン」州「ラハト」に於て十六独立隊守備隊司令部を改変し独立混成隊二十六旅団司令部を編成す。
昭和三十九、四十、六	<p>尔後「ラハト」に位置し南部「スマトラ」五州警備</p> <p>戦病死三名（別表参照）疾病の爲内地還送患者三名（別表参照）</p> <p>昭南に転進、尔後「バイヤ」に位置し「カラ」河「カ」貯水池「セ」ランゴン「河」の線を連ぬる以東地区へ「チヤンギー」地区と称す警備</p>
八、一四	<p>終戦</p> <p>主力南部馬來「レンガム」へ「コグルアン」南方約十二哩へ後駐、一部終戦迄</p> <p>理の爲、昭南「チヤンギー」地区に残置</p> <p>入院患者 将校一、下士官兵三</p> <p>主力「リオリ」群島「レムパン」島駐留</p> <p>将校一名戦病死、下士官一名歿死</p>
昭和三十九、四十、五	<p>征代旅団長</p> <p>陸軍少将（昭和三十九年六月中将に進級）河田 槌太郎</p>

概

要

部隊事情精通者

香川県三豊郡太野原村大字太野原九二七

陸軍火佐

石川 晋五郎

兵庫県有馬郡道場村楡田一三八二

陸軍大尉

宇津 清

山形県南村郡金井村大字津金沢一八

陸軍火尉

高橋 長栄

(93)

1734

独立混成隊第二十六旅団独立歩兵隊第四十六大隊部隊隊歴

大隊長 間柄善太郎

年月日	概	要
昭一八、二、六	軍令陸甲カ一〇六号に依り臨時編成下令	
一九、一、一	編成着手	
一九、一、八	編成完結(トスマトラレ島、トベンクローレンレ)	
昭一九、七、一	トスマトラレ島、トベンクローレンレに位置し、南部トスマトラレ防衛に従事す	
昭一九、九、六	部隊の主力を以てトエンガノレ島に前進し、仰友洋西正面のカ一線を担任す	
昭一九、九、二〇	昭南島に転進し、同島防衛に従事中、今次の終戦に会す	
昭一九、一〇、一	トレンパンレ島に後駐	
昭一九、一〇、一	部隊編成以来の損耗人員	
昭一九、一〇、一	一、戦病死 二七名	
昭一九、一〇、一	二、戦死戦傷死 なし	
昭一九、一〇、一	三、行方不明 なし	
	歴代部隊長名	
	一、大佐 中田正之	
	二、大佐 右川音五郎	
	三、大佐 間柄善太郎	

三三三三三

部隊事情精通者

兵庫泉朝来郡与布土村森二三四

陸軍大尉

藤本

武

山口泉岩国市麻里布町大字室木才三四八三

陸軍大尉

西本

増美

(95)

1736

独立混成隊二十六旅団独立歩隊第四十七大隊部隊略歴

大隊長 陸軍少佐 六 七 郎  
 代理 陸軍大尉 斎藤 隆 介

年月日	概	要
昭一九、一、八	「スマトラ」島「マナ」に於て編成、尔後同地附近警備	
二〇、六一四	昭南島に転進、尔後同地附近警備	
八一四	昭南島に於て終戦	
九、九	馬來「レンガム」に後駐 (大隊長の率ゆる主力を除く) 馬來「レンガム」に後駐を命せられ逐次前進の途中に於て大隊長の率ゆる主力 (現在昭南駐留中)たる後発部隊の後駐行動停止を命せられ、尔後現状維持に て別行動中	
一〇、二四	馬來「レンパン」島に後駐	
昭一八、六一一	上記期間に於ける損耗人員左の如し	
自二〇、六一二	戦病死 下士官三、 兵七、 内地還送患者 下士官三、 兵二、	
自二〇、六一四	上記期間に於ける損耗人員左の如し	
昭二〇、六一五	戦病死 兵二、 上記期間に於ける損耗人員左の如し 公務死 下士官四、 戦傷者 下士官八、 兵九	

マライ 二四日

正代部隊長名	細川志道
大佐	
少佐	玄七郎
部隊事情精通者	
宮城県石巻市立町一四三	
陸軍大尉	斎藤隆久
石川泉河北郡津幡町字津幡八ノ六三	
陸軍大尉	小泉直吉
山形県飽海郡内郷村字小見「莊司喜代太方」	
陸軍少尉	小林三郎
石川泉七尾市字府中上部一二	
陸軍准尉	川崎喜一郎
石川泉金沢市錦町六ノ一六八	
陸軍准尉	高嶋欽一
群馬県利根郡赤城根村大字南郷「鈴木与市方」	
陸軍曹長	染知公
石川泉河北郡笠谷村字烏屋尾力一二	
陸軍軍長	中村正夫

	年 月 日
<p style="text-align: right;">石川県金沢市野田寺町四丁目六十六 陸軍主計軍曹 堀 喜雄</p>	<p style="text-align: center;">概</p> <p style="text-align: center;">要</p>

(78)

1739



マライニエ

独立歩兵六百四十九大隊部隊略歴

大隊長 真山松藏

年月日	概	要
昭八、一〇、二一	歩兵六百四十九連隊補充隊に於て六百四十九兵站警備隊編成	
昭一八、二、二一	「スマトラ」島「ランポン」州に派遣、尔後同地区の警備	
昭一八、二、二一	兵二戦病死	
昭一八、二、二一	「スマトラ」島「ランポン」州に於て軍令陸甲六百六号により独立歩兵六百四十九大隊（六百四十九兵站警備隊）編成（復帰）	
昭一八、二、二一	大隊主力は「パレンバン」地区に残余は「ラハト」地区に夫々転進、尔後各々同地区警備	
昭一八、二、二一	兵一戦病死、入院患者兵六、内地還送	
昭一八、二、二一	「パレンバン」及「ラハト」地区に各々約一中を残留し、主力は「クルイ」地区に転進、各々同地区警備	
昭一八、二、二一	下士官一、兵六、戦病死	
昭一八、二、二一	入院患者 村枝一、兵一、内地還送	
昭一八、二、二一	大隊主力は中部「スマトラ」州「ソロク」地区に転進、尔余の兵力は「クルイ」地区に在りて各々同地区警備	
昭一八、二、二一	兵二、戦病死	

年月日	概	要
昭二〇、六	主力はソロクシ地区より、他はクルイシ地区より夫々昭南島に転進集結し、	
昭二〇、六	尔後同島ヲチヤンギーシ地区警備	
昭二〇、六	矢三、戦病死	
昭二〇、六	馬来ヲジヨホール州ヲレンガムシに後駐	
昭二〇、六	矢一、戦病死	
昭二〇、六	「リオ」諸島ヲレンパンシ島に後駐	
昭二〇、五	矢二、戦病死	
昭二〇、五	内地帰還の途ヲレンパンシ島出発	
昭二〇、五	鹿見島港上陸	
昭二〇、五	復員完結	
昭二〇、五	歴代部隊長名	
昭二〇、五	オ五九矢站警備隊長 陸軍中佐 佐田章一	
昭二〇、五	独立歩兵百四十九大隊長	
昭二〇、五	ノ 陸軍中佐 藤森茂	
昭二〇、五	之 陸軍少佐 真山松茂	
昭二〇、五	部隊事情精通者	
昭二〇、五	島根県那賀郡今市村大字今市三四九	

マシイニト

040

(100)

1741

1742

陸軍大尉 高子春彦

本島県芦品郡服部村大字助元一

陸軍中尉 沢田照夫

本島県呉市玄町石内 長田富久馬方

勤勞先 呉市東二河通三丁目 中国配電株式会社

陸軍曹長 八木為登